佐同教だより

佐賀県人権・同和教育研究協議会
住　所　佐賀市大和町大字川上　佐賀県教育センター　研究調査棟内
ＴＥＬ　０９５２（６２）６４３４　ＦＡＸ　０９５２（６２）６４３５

今、そしてこれからの人権啓発・教育、人権のまちづくりを佐賀の地から

～確かな学びをもとに、人と人とがつながり合い、豊かな社会をつくろう！～

第48回佐賀県人権･同和教育研究大会

分科会　特集

総参加者数が394名の盛会となった第１分科会

10月23日（火）に、佐賀市内の5会場で「今、そしてこれからの人権啓発・教育、人権のまちづくりを佐賀の地から～確かな学びをもとに、人と人とがつながり合い、豊かな社会をつくろう！～」を大会テーマに、第48回佐賀県人権・同和教育研究大会分科会を開催しました。県内各地から、社会教育・学校教育関係者をはじめ千名を超える参加者が5つの分科会に分かれ、レポート報告をもとに、日頃の実践を交流しました。

第１分科会【人権啓発】
佐賀市文化会館
イベントホール

○行動につながる学びとは
～自分のこととして考える人権学習をめざして～
八谷小百合 さん
西　勝弘 さん
（佐賀市人権・同和政策・男女参画課）

○人が集まる場所に
人権の学びを組み込もう
～社会教育のよさを生かして～
松尾 昭典 さん
田中 茂子 さん（神埼市教委）

○同じ目線で市民に寄り添う、
隣の村上さんであり続けたい
村上 通子 さん（伊万里市教委）

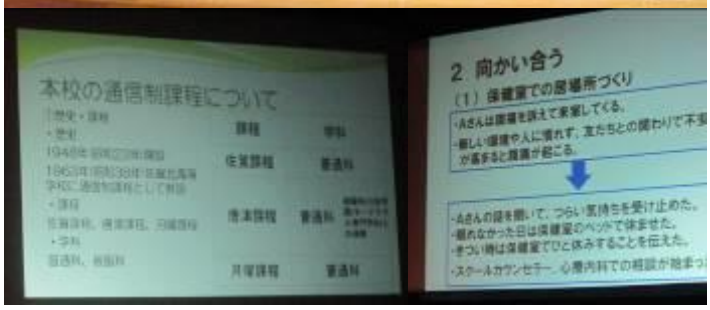
【意見・感想等】

○神埼市の報告では、子どもたちがドリームパークに参加し、様々な体験や人とのつながりを経験することによって、自然に多様性を学んでいるということがわかった。

○佐賀市の報告では、参加者がクロスロードの手法を体験することにより、社会には様々な価値観を持った人々が共に生きており、お互いの人権をどう尊重するかを考える機会を得ることができた。

○伊万里市の報告では、あまり意識してこなかった同和問題に正面から取り組み、自身の心の変容をありのままに語った内容が多くの参加者の心に響き、学びにつながった。

第２分科会【環境づくり】東与賀文化ホール



○児童支援のための「ほっとタイムノート」の活用
～教室で笑顔で過ごせるために～
藤田 厚子 さん（武雄市立武雄小学校）

○この子をみつめて
～厳しい状況にある子どもを笑顔にするために～
中島 良太 さん（伊万里市立立花小学校）

○通信制課程の現状と課題
～スクーリングの関わりの中で～
田村 郁洋 さん
（佐賀県立佐賀北高等学校通信制課程）

○自己肯定感を高める取組
～出番・役割・承認の機会をつくって～
福田 孝 さん（唐津市立鏡中学校）

○藤田さん・・若い頃は保健室登校の子が泣くと、泣くことを取り除いてやりたいと思い悩んでいたが、「答えは子どもの中にある」と先輩教師から諭された。行動の意味を考え確認しながら子どもに対応している。「来ていい？」と問われたら、まず受け入れることを考えている。子どもの様子を見ながらの対応をしている。

○中島さん・・個の良さを見つけるコツ？、深く考えたことはない。生活の中に個の良さが隠れているだろうから「見とり」を大切にしている。しっかり自分が観察し、声かけしたり、周りの子からどんな様子なのか聞き取りをしたりする。見つけたら、さりげなく本人・クラス全体で話をする。クラスで良いところを共有する。「観察し、ほめる場をつくる」をくり返し行っている。

○田村さん・・進路保障としての補習は、生徒の希望で全ての科目で開講。全日制と同等。体調、精神面で厳しいので強制できない。科目によっては個別対応。レポート対応でも。統一した進路指導は難しい。個別対応で、進路保障を行っている。

○福田さん・・この報告では教師からの承認を中心に述べられている。現在は、生徒同士がお互いに認め合える取組を実践している。日記等のコメントを帰りの会や学級通信で紹介。保護者からの承認も大切だと考え、毎日一回発行されている。

第３分科会【人間関係づくり】フォレスタふじ　多目的ホール

○44人学級だからこそ
～人と人とのつながりを生かした実践を通して～
江里口 隼平 さん（多久市立東原庠舎中央校）

○みんなが笑顔で過ごすために
～特性をもったＡさんの居場所づくりを中心に～
於保 綾 さん（佐賀市立鍋島小学校）

○この仲間と出会えてよかった
～一人ひとりを認め、人と人をつなげていく取組を通して～
榛葉 美樹 さん（唐津市相知中学校）

【意見・感想等】

○担当だけでなく、職員が一丸となって実践をしていることで学校の雰囲気がよくなり、その学校へ通う児童生徒も生き生きとして学んでいることが感じられた。こういう研修会での実践が県内の学校に浸透していってほしい。

○３本のレポートを聞いて、あらためて学級集団づくりがすべてのベースになると感じた。教師が生徒の実態を把握してその実態に合った取組を仕組んでいくことが担任としてやらなければいけないことであると感じた。機会を捉えて若手の教員にもそのことを指導していきたい。また、教師集団の人間関係を良好にすることが、子どもたちの人間関係を良くすることにつながると感じた。

○自分はまだ教員として未熟で、自分の思いを生徒に伝えることやその伝え方の工夫ができず、思い悩んでいるところです。今日はたくさんのヒントをいただいたと思っています。職場のベテランの先生方に教えていただきながら、できることから少しずつ実践していきたいと思っています。

第４分科会【学習活動づくり】
佐賀県教育会館　大会議室

○差別を乗り越える力をつけていく
　　部落問題学習をめざして
　～生徒の主体性を育む人権・同和教育～
　　川原 章子 さん(佐賀市立昭栄中学校)

○子どもたちの「かけはし」へ
　～Ａさんとともに歩んだ１年間～
　　川原 悠 さん（鹿島市立浜小学校）
　　百武 泉 さん（スクールカウンセラー）

○多様な個性を尊重する態度の育成
　～ＬＧＢＴＱの学習を通して～
　　野口 知孝 さん
　　大川内 美波 さん(基山町立基山中学校)

【意見・感想等】
○当事者との出会いの場面を設定するのは難しいが、いろんなところに私たちがアンテナを張って、子どもたちに出会わせることによって、学びが深まると思う。

○地区同研などでは職員研修が行われているが、校内の職員研修がまだ進んでいない。これから先、ＬＧＢＴＱに関する実践が多くなると思った。今後校種間での実践を踏まえたカリキュラムが必要になってくるのではないか。
○ＳＣや養護教諭と連携した取組については、子どもたちが生きていきやすくなるようお互いに協力し合いながらやっていけたらと思う。授業をする時は、密に連絡を取り合うことが大切である。

第５分科会
【人権のまちづくり】
メートプラザ佐賀
多目的ホール

○ありのままで
　～よりみちステーションの活動を通して～
　　小林 由枝 さん（よりみちステーション）

○あなたにつたえたい
　～対面朗読のボランティア活動を通して～
　　田内 法子 さん　吉永 節子 さん
　　（対面朗読　草ひばり）

○誰もが安全に安心して暮らす
　　権利を保障する社会の実現
　～被害者支援ネットワーク
　　佐賀ＶＯＩＳＳの取組～
　　岩永 絹子 さん
　（被害者支援ネットワーク佐賀ＶＯＩＳＳ）

○小林さんは、「いつでも誰でも来られる　みんなの『居場所』みんなの『Home』をキャッチフレーズに「よりみちステーション」を運営しておられる。生きづらさを抱える子どもたちの助けになりたいと、水曜日開催の「ぼちぼちや」・中学生と赤ちゃんのふれあいの場「てくてく」・月～金曜日開催の「くむくむ」の３つを展開中。子どもたちに「さんま（時間・空間・仲間）」がない状況を変えたいと立ち上がられた。そこでは、「何をしてもいいし、何もしなくてもいい。おとなが提供するプログラムはなし。」が基本。学校でも家庭でもない第３の居場所なのだから。
○「草ひばり」は、伊万里市民図書館の開館と同時期から活動されている対面朗読のボランティアグループ。対面朗読とは目の不自由な方や文字の読みづらい方に一対一で読み聞かせを行うものである。子どもたちや次世代へ伝えたい平和への思いを語る活動にも尽力されている。当日は、戦争の体験記を紙芝居にした『コスモスの記』を朗読していただいた。感動した参加者から「ぜひ、うちの学校に。」とのオファーが入っていた。
○岩永さんからは、被害者支援ネットワーク佐賀VOISSの活動についての報告だった。日本の被害者支援は、欧米よりも２０～３０年遅れていて、設立当初は電話やメールによる相談が中心であったが、近年は面接相談、裁判所、検察庁、警察、医療機関、行政機関等への付き添いや代理傍聴等の直接的支援も増えてきている。加害者となった青少年が学び直しをする中で、被害者への償いとは何かを自ら考えることができるようにすることが目的であると語られた。
○子ども（人）に寄り添うこと、その声に耳を傾けることが大事なんだという思いを参加者全員で共有することができた。

10月28日（日）教育会館で、人権保育研究集会を開催しました。当日は、天気にも恵まれ、総勢121名の参加を得ることができました。

講師は常磐会短期大学教務部長で教授でもある卜田真一郎さん、「子どもの人権を『守り』『育む』保育」という演題で、ご講演をいただきました。

☆質疑の中の回答から

○自信がないから失敗をひどく恐れる子、自己肯定感が低い子、自分の思いを表現できない子が多い。「おとなが子どもの気持ちをしっかりと聞き取り、言葉にして代弁すること」「互いの思いを表現し合う場づくりを増やすこと」「自分で選択する場、活躍する場を増やすこと」が必要。

○学力が二極化してきているように感じる。一人ひとりの生活経験の差を把握し、プラスの実体験を保障していくことが大切ではないか（友だちと遊ぶ、話し合うなども含めて）。目標が見いだせない子には、人や先輩との出会いの場をつくってみてはどうか。

○人権のトライアングル（尊敬、公平、反偏見）を育成するための手立てが必要。併せて職員間の意思疎通が難しいが、とても重要だと思う。

☆意見・感想等抜粋

○同和保育、同和教育を基盤に今日的な幅広い人権問題を提示していただき、大変勉強になりました。小学校教員時代にも「就学前教育」の研修会に参加させていただいていましたが、今年度私立保育園に再就職し、今日の特別講演を受講し、改めて、あの頃、頭で考えていたことが、今日体感として理解できることがたくさんありました。保育の重要性を改めて考える場となりました。加えて、福祉現場でのユマニチュードのビデオ、驚きでした。保育にも教育にも通じる大切な考えでした。とても勉強になりました。

○すぐにでも実践できる取り組みの紹介があったので、明日から早速取り組んでいきたいと思いました。「見る、話す、触れる、立つ」ユマニチュードの基本は、教育、介護に関らず、人との関わりでも大切なコミュニケーションですね。まず、家族で試してみます。

○子どもの権利がおとなのあり方に左右されること、マジョリティーとマイノリティーを人権課題で考えていく時、マイノリティーを取り込むのではなく、マジョリティーが変わっていくこと、つまり社会全体が変わることが大切だと感じました。同和保育で実践されている集団づくりがおとなになった時の偏見を克服できる力を育んでいることを知ることができました。

○ユマニチュードについては、最近テレビで見ていましたが、私自身、高齢の両親の介護にかかわっていて、人間としての尊厳を守ることの大切さがよくわかりました。クラスの集団づくりのお話も、中学校の教員にとっても多くの示唆を得ることができました。

○正直なところ、朝来た時には、「比較的幼少の生徒に接することに話を絞った講演なのだろうな、その話のうちいくつかでも勉強になれば良い」という考えでした。勿論、話の主軸は保育園での人権教育でしたが、高校教員である自分も大変参考になるものばかりで、よい意味で期待を裏切られました。特に、『ユマニチュード』の技術は、全てのカテゴリの教員にも役に立つのではないかと感じております。ぜひ、同僚にも情報共有を図りたいと思います。

○内容はとてもよかったのですが、保育園や幼稚園の先生方が、私が思っていたより少なく、保育士不足や多忙感が現場の悩みだということが、この場からも感じられました。